

## 令和7年度 第2回末野原地域会議 会議録

- 日 時 令和7年5月15日（木） 午後7時から8時50分
- 場 所 上郷交流館 2階 ふれあいホール
- 出席者 委員 : 14名（欠席2名）  
事務局（上郷支所）：下川支所長、伊藤担当長、永田主査

### ■次 第

「豊田市民の誓い」唱和

- 1 会長あいさつ
- 2 令和7年度第1回地域会議の会議録について
- 3 協議事項 目指す姿を達成するための地域会議としてのアクション
- 4 その他
  - (1) 地域会議だより No.45 の発行について
  - (2) 上郷地域バスについて
  - (3) 次回の地域会議について

### ■議事（要約）

- 1 会長あいさつ 省略
- 2 令和7年度第1回地域会議の会議録について

・第1回地域会議の会議録の内容確認を行い、了承を得た。

- 3 協議事項 目指す姿を達成するための地域会議としてのアクション

・目指す姿や必要な取組の実現に向けて、協議結果に説得力を持たせるため、前回に引き続き、以下の議題2点について、2つのグループに分かれて協議した。

**議題1** 地域会議の協議結果を実行しないと、誰が・どう困るのか（問題の重要性・深刻度）

【グループ①】

- ・HUG を体験して、特に、部屋割り、トイレが課題。多様な方々が避難してくることを想定できていなかったため対応に困難を感じた。
- ・飲食、睡眠、排せつなど生活に最低限必要な活動が担保できず、安全安心な避難所とならない。
- ・全体のイメージがわからないままその場しのぎの指示になると、現場を混乱させる要因になりうる。避難者、リーダーの信頼関係がくずれ、協力体制が築けない。
- ・周知啓発しないと、避難所が避難者の自主運営であることを知らないまとなり、各自の役割、開設時の状況が理解できない。
- ・訓練をしないと、円滑な避難所運営ができない。訓練を通じて、マニュアルも理解しやすいものへ改善していくことができる。

- ・避難所運営マニュアル以外に平常時に準備できる備えをしないと、啓発・訓練もしづらい状態が生まれ、円滑な自主運営がしづらい。

【グループ②】

- ・HUGを体験して、ペット連れ、外国人など様々な人避難所を訪れ、判断ができないケースがあった。場合によっては観光バス等で一気に避難してくるケースもあることを知り、避難所の運営ができない状況になることが想定された。そのため、指示を出すリーダー的役割が担える存在が必要である。
- ・住民（避難者）のほとんどは、避難所に行けば何とかなる意識を持っており、いざ避難した際に備蓄や生活物資がないことを初めて知ること、避難所生活を送ることができなくなる。

議題2 実現したい地域の状況の具体化（目標の明確化・共有）

<グループ①>

- ・十分な議論ができなかったため、次回意見のまとめを行うこととした。

<グループ②>

いつ	誰が	どんな状態であればよいか
平常時	リーダー	・発災時に指示が出せる予備知識がある。
	住民	・自主運営であることや備蓄を自分たちで用意するなどの避難所のルールを知っている。 ・各自備蓄ができている。
発災直後 （～24h 程度）	***（※）	・避難所の安全管理（破損やガス漏れ等の確認）や避難所開設時に第一声を上げる人がいる。
	施設管理者	・すぐに避難所の鍵が開き、避難生活が開始できる。
発災時 （24h経過）	***（※）	・大きな組織のままだと動きが取りづらいため、避難所内でのグループができている。 ・避難所内の詳細なルールや避難者向け情報提供用の掲示板が作成されている。

※\*\*\*とは、議論の中で決定していないことを表す。

4 その他

事務局から、次の事項について報告連絡した。

- ・地域会議だより No.45 の発行について  
5月区長会で回覧を依頼した。内容は、前回会議で配付した原稿案から変更がないことを報告した。
- ・上郷地域バスについて
- ・次回の地域会議について  
とき 6月19日（木） 午後7時～9時  
ところ ふれあいホール